米国市場の回復で8月のイタリアワイン輸出は5.1%増

年初から8カ月間の輸出はなお3%減。米国需要に大きく左右される脆弱な回復が浮き彫りになった

2026年11月15日（日）



Istatの暫定データをWineNewsが11月13日（金）に分析したところ、8月のイタリアワイン輸出には改善の兆しが見られたものの、回復にはばらつきがあり、依然として米国市場への依存度が高い。

1～8月のイタリアのワイン輸出額は48億5,000万ユーロで、2025年の同時期を3%下回った。これは、年央時点の6.2%減、7月末時点の5.3%減から改善した数字だ。8月単月の輸出額は5億680万ユーロで、2025年8月比5.1%増となった。

全体の減少幅が縮小した主な要因は米国市場だった。イタリア最大のワイン輸出先である米国向けの1～8月の輸出額は11億ユーロで、2025年の同時期と比べると依然8.3%減だった。ただし、7月ま

での累計では11.2%減で、8月には大きく持ち直した。米国向け輸出額は、前年同月の9,250万ユーロから8月には1億1,210万ユーロへ増え、21.1%の伸びとなった。

この急増によって年初来の平均値は変化したが、需要が完全に反転したと判断するには至らない。公表値に基づくと、8月までのイタリアワイン輸出額は、2025年の同時期と比べて約1億5,000万ユーロ減少した。米国市場だけで減少額は約1億ユーロに上り、全体の落ち込みのおよそ3分の2が米国によるものだったことを示している。数値は概算だが、イタリアの輸出実績が依然として米国市場の動向に大きく左右されていることが分かる。

データはまだ不完全でもある。WineNewsによると、輸出量の数値はまだ公表されておらず、実際の出荷量の変化と、価格や商品構成の変化とを切り分けることはできない。プレミアム銘柄、スパークリングワイン、バルクワインの動向が金額ベースのデータにそれぞれ異なる影響を与え得る業界では、この点が重要となる。

8月までの他の主要輸出先も低調だった。イタリアワインのドイツ向け輸出額は7億140万ユーロで、前年同期比5.5%減。英国も5.5%減の4億7,910万ユーロ、カナダは6.1%減の2億6,580万ユーロだった。主な例外は中国で、輸出額は21.7%増の5,100万ユーロ超となった。WineNewsは、スパークリングワインを中心とする堅調な伸びと評している。それでも中国がイタリアのワイン輸出総額に占める割合は小さく、規模の大きい西側市場の不振を補う力には限りがある。

業界の別の分析も同様に慎重な見方を示している。Tenute agricole 24は、Unione Italiana Viniの観測機関による推計を引用した週次まとめで、欧州連合（EU）域外市場向け輸出額は第3四半期に8%増え、米国向けは17%増となったと伝えた。しかし、1〜9月の累計ではEU域外市場向けが3%減、米国向けが6%減と、依然マイナスだった。改善は実際に起きている可能性があるものの、まだ脆弱な状況であることがうかがえる。

同じまとめは、米国市場の最近の回復の一部が、消費者需要の明確な増加ではなく、輸入業者による在庫の積み増しを反映している可能性も指摘した。この違いは重要だ。流通業者からの注文が増えれば、店頭やレストランのワインリストでの販売が速まっていなくても、短期的には輸出データを押し上げることがある。ワイナリーや輸入業者、飲料業界全体にとって、これは輸出計画、価格設定、在庫管理の判断に影響し得る。米国市場の最近の好調が主に在庫補充の動きによるものなら、出荷の持続的な回復にはつながらない可能性がある。

輸出データは、イタリア国内の供給状況と併せて見る必要もある。10月31日時点で、ワインセラーの在庫は4,770万ヘクトリットルに達し、前年同期比7.2%増だった。輸出の拡大は、海外需要が数カ月にわたって低迷した後の在庫削減に役立つ可能性がある。しかし、8月までの輸出が3%減少し、セラーの在庫も増えていることから、年末にかけて生産者には販売を進める圧力がなおかかっている。

つまり、全般的な回復というより、単一市場がけん引する部分的な改善と見るべきだ。海外でのイタリアワインの動向を左右する決定的な市場は、需要が弱まる局面でも回復する局面でも、依然として米国である。9月のデータが公表されれば、8月が安定した回復の始まりだったのか、それとも輸入業者の仕入れ増に押し上げられた一時的な動きだったのかが明らかになりそうだ。